

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	現代社会特論Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0097			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	ビジネスコミュニケーション学科			対象学年	4		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書は特に指定しない。教材は適宜配布する。						
担当教員	田淵 義英						
到達目標							
①古代から現代までの哲学史を概説することが出来る ②新しい実在論について理解し、説明することが出来る ③新しい実在論の現代的意義を理解し、それを現代社会の批判的検討のために活用することが出来る							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	現代社会は、「大きな物語」が失われた世界であると言われる。いまや人々は、普遍的な人生の価値と、それを達成するための物語を信じるが出来なくなっている。このような思想はポストモダンと総称され、その頂点は言語論的転回という実在論に対する認識論の高らかな勝利宣言にあるといっただろう。しかし21世紀を迎えた現在、この寄る辺なき思想に対して実在論の復権を唱える新たな転回が模索されている。それが、カンタン・メイヤスの「思弁的実在論」やマルクス・ガブリエルの「新実在論」である。本講義では、このような新しい実在論に着目し、それが言語論的転回に対する実在論的転回になり得るのかについて検討する。						
授業の進め方・方法	確実に提出物を出すことが単位取得の要件となる。定期試験やセミナーとの兼ね合いについては特に配慮しないので、自分でしっかりと時間管理を行うこと。評価はレポート100%とし、60点以上を合格とする。						
注意点	哲学自体がマイナーである上に、根気強く読み、孤独に考えなければいけない分野である。その作業は人によっては大変な苦痛を伴うこともあるので、あらかじめ関心の有無をよく吟味してから選択すること。なお、最低開講人数は二名以上とする。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	世界についての哲学史①		哲学史を全体的に概観することは容易ではない。ここでは、本講義の目的に照らして、とくに「世界」についての哲学史を概観する		
		2週	世界についての哲学史②		哲学史を全体的に概観することは容易ではない。ここでは、本講義の目的に照らして、とくに「世界」についての哲学史を概観する		
		3週	世界についての哲学史③		哲学史を全体的に概観することは容易ではない。ここでは、本講義の目的に照らして、とくに「世界」についての哲学史を概観する		
		4週	現象学および（ポスト）構造主義と、存在の不安①		現象学および（ポスト）構造主義などの現代思想を、「存在」に対する「認識」の優越という画期的な出来事として正しく把握し、それがもたらした存在の不安について理解する		
		5週	現象学および（ポスト）構造主義と、存在の不安②		現象学および（ポスト）構造主義などの現代思想を、「存在」に対する「認識」の優越という画期的な出来事として正しく把握し、それがもたらした存在の不安について理解する		
		6週	現象学および（ポスト）構造主義と、存在の不安③		現象学および（ポスト）構造主義などの現代思想を、「存在」に対する「認識」の優越という画期的な出来事として正しく把握し、それがもたらした存在の不安について理解する		
		7週	現象学および（ポスト）構造主義と、存在の不安④		現象学および（ポスト）構造主義などの現代思想を、「存在」に対する「認識」の優越という画期的な出来事として正しく把握し、それがもたらした存在の不安について理解する		
		8週	中間総括		前半の総括		
	2ndQ	9週	新しい実在論①		カンタン・メイヤスの「思弁的実在論」やマルクス・ガブリエルの「新実在論」を手掛かりに、新しい実在論について理解する		
		10週	新しい実在論②		カンタン・メイヤスの「思弁的実在論」やマルクス・ガブリエルの「新実在論」を手掛かりに、新しい実在論について理解する		
		11週	新しい実在論③		カンタン・メイヤスの「思弁的実在論」やマルクス・ガブリエルの「新実在論」を手掛かりに、新しい実在論について理解する		
		12週	新しい実在論④		カンタン・メイヤスの「思弁的実在論」やマルクス・ガブリエルの「新実在論」を手掛かりに、新しい実在論について理解する		

		13週	新しい実在論⑤	カンタン・メイヤースーの「思弁的実在論」やマルクス・ガブリエルの「新実在論」を手掛かりに、新しい実在論について理解する
		14週	討論	ここまで検討してきた「世界」をめぐる「存在」と「認識」の覇権争いを踏まえ、それぞれの立場から討論する
		15週	総括	全体の総括
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	経済・ビジネス系分野	異文化理解	専門分野における異文化コミュニケーションの具体的事例について評価できる。	2	前15
				言語が話されている地域の社会的・文化的な背景まで理解した上で言語を使用することができる。	2	前15
				地球規模で発生している問題の重要性を理解した上で、外国語を用いて調査し、議論することができる。	2	前15

評価割合

	レポート	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0